

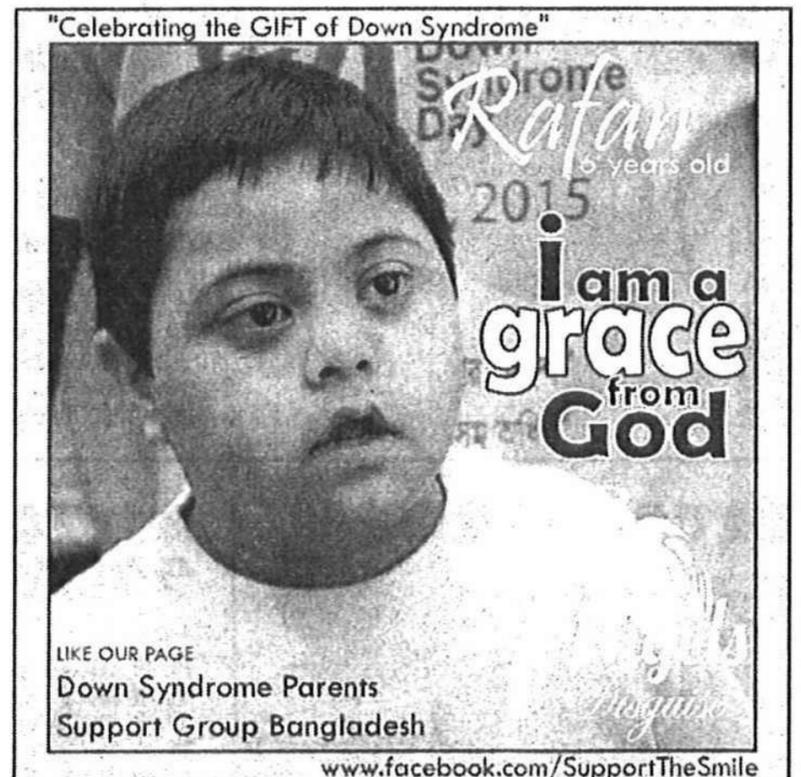
ゆめ わらわ 夢 立

菅波 茂

5月18日から5日間、領も列席してくれた。翌バンングラデシユの首都であるダッカを訪問した。2年前はスモッグでくすぶっていた空が太陽の輝く青空になっていたことに驚いた。すべてのタクシーの燃料が固形燃料に規制された結果である。加えて、空港からは6車線の道路がダッカの東側を走り、新しい街づくりが進められていた。経済が向上している象徴である。

この病院の理事長でありAMDABanングラデシユ支部長であるナイーム医師は、アジア太平洋地域における内視鏡腹腔手術の第一人者である。専門家をそろえて内視鏡腹腔手術センターも設立した。消化器科、泌尿器科そして産婦人科などの治療を行っている。GPSシユ友好病院も著しい成長を遂げていた。保健分野への外資の投資第1号として、開院式には大統

バンングラデシユにみる有償支援の時代



AMDABanングラデシユ支部が関わる、ダウン症候群の子を持つ親をサポートする団体のポスター＝団体のフェイスブックより

ではないでしょうか」と指摘すると、ダウン症候群の親善大使になってくれと要請された。

ナイーム支部長の友人の長男は日本のアニメが大好きである。彼にお願いした。「アニメは想像力が肝心。ダウン症候群の子もたちのそばに身を置いて、彼らと交わり遊ぶなかで想像力を育成してアニメを作ってみたらどうでしょうか」と。AMDABanングラデシユ支部の事務局長で、17年前から小規模融資プロジェクトを実施しているラザック氏に質問をした。「ダウン症候群の子どもたちのための活動を深化させる財源を増やすには、小規模融資プロジェクトの規模を大きくすることが必要。今のスタッフでどのくらいの資金導入をこなせるのか」と。「1200万円（AMDAGループ代表）は大丈夫」との答えだった。

AMDABanングラデシユ支部は小規模融資による利益で、ダウン症候群の子を持つ親の支援も重要な課題として取り組んでいる。AMDABanングラデシユ支部は小規模融資による利益で、ダウン症候群の子を持つ親の支援も重要な課題として取り組んでいる。AMDABanングラデシユ支部は小規模融資による利益で、ダウン症候群の子を持つ親の支援も重要な課題として取り組んでいる。